

# 日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年 9月 24日

氏名	内藤 恵里
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2015年8月17日(月)～22日(土)
大学名	日本医科大学
学年	5年

今回私が参加させて頂いた医学部夏期集中医学英語研修プログラムは、1週間という短い期間でしたが、とてもいい刺激を受けることが出来ました。

研修中は他の研修生とともに Hawaii Tokai International College (HTIC) に滞在し、午前は HTIC で Medical English と Medical Ethics のレクチャーを受け、午後は病院やクリニックを訪問した後、夕方からはハワイ大学医学部 John A. Burns School of Medicine (JABSOM) にて向こうで活躍しておられる日本人の先生方のお話を聞き、レクチャーを受け、その後 JABSOM の学生の協力のもと問診をとり、それをまとめて先生方に Case Presentation をする練習を行いました。

Medical English では、かの有名な Dr. Little と医師の Dr. Shon に Case Presentation のコツを教えてくださいました。こちらのクラスで準備を行うことで、夜の Case Presentation に気持ちに余裕を持って挑戦することが出来ました。

Medical Ethics では、神戸大学と東海大学の先生方のご指導のもと、皆で ethical な議題についてディスカッションを重ねました。ディスカッション中は様々な意見が飛び交い、時間の許す限り白熱した討論が行われました。

病院やクリニックを訪問した際は、働いておられる日本人の先生方のお話をお聞きするとともに、施設をすみずみまで見学させて頂きました。医療設備自体に日本との大きな差は見られなかったというのが個人的な意見ですが、合理的な医療システムと、日本人の先生方含めて働いてらっしゃる方々の充実したご様子がとても印象的でした。

JABSOM で、日本人ドクターにお話を伺ったり、英語でレクチャーを受けたり出来たのは本当によかったです。向こうで働く上で求められること、メリットとデメリット、苦労されていることなど、たくさんの生の声をお聞きすることが出来ました。

その後、JABSOM の学生に患者さん役をしてもらって問診をとり、先生方に Case Presentation を行いましたが、初日は本当に難しかったです。しかし、コツを教えてください、日を経るにつれて徐々に慣れてきて、最終日には自信を持って Presentation を行うことが出来ました。アメリカで医師として働く上で Case Presentation の能力は極めて重要と伺いましたので、今回これを集中的に練習出来てとてもよかったです。

このように今回の研修では刺激的なプログラムがたくさんありましたが、一番貴重だったと思うのは、多くの優秀な先生方及び学生と交流出来たことです。前述の通り先生方には大変助けとなる話を伺えましたし、色々な大学から参加した日本人医学生と1週間充実した時間をともに過ごせたことは宝物です。志を同じくする仲間と合間の時間に遊んだり、将来の夢を語り合ったりしたことは忘れません。今後とも永くお付き合いしたい彼らと出会う機会を頂いて、心より感謝しております。また、JABSOM の学生とも問診の合間にお話できましたが、彼らの優秀さに驚く一方で、気さくな彼らと楽しくおしゃべりが出来て良かったです。

このかけがえのない1週間を私に与えてくださった全ての先生並びに全ての学生、HTIC のスタッフ、日米医学医療交流財団様に深く感謝しております。ありがとうございました。